

令和7年度 第2回山梨県考古博物館協議会議事録

1. 日 時 令和8年3月10日（火） 14:00～16:00

2. 場 所 風土記の丘研修センター 講堂

3. 出席者（敬称略）

（委 員） 11名

（事務局） [文化振興・文化財課]1名

[考古博物館]7名

4. 会議次第

（1）開会

（2）館長挨拶

（3）議事

（4）閉会

5. 会議に付した事案等について

○令和7年度 考古博物館事業経過・予定事業について【公開・公表】

○令和8年度 考古博物館予定事業について【公開・公表】

○考古博物館利用状況について【公開・公表】

○その他

令和9年度特別展について【非公開・非公表】

6. 非公開とした理由

令和9年度特別展について

山梨県情報公開条例第8条第5号及び6号に規定する事項について審議等を行うときに該当するため（指針第3条第1項）

7. 議事録の概要

○令和7年度 考古博物館事業経過・予定事業について

・冒頭事務局より考古博物館に関する説明があった。

※特段の意見なし。

○令和8年度 考古博物館予定事業について

- ・冒頭事務局より考古博物館に関する説明があった。

(委員) 古代衣装の貸出事業について、学校への貸出の際に、天候による制約はあるか。火起こし体験なども雨だとできない等、制限はあるか。

(事務局) 火起こし体験は、屋根のある場所で実施するようにすることで、雨天でも支障はない。古代衣装の貸出については、利用期間やこういった形で利用するのか等ご相談いただければ検討させていただく。

(委員) 学校としてではなく、PTA としてでも事業は対応可能か。

(事務局) 貸出事業や火起こし体験など、PTA 活動への対応も可能。

(委員) 埋蔵文化財センターによる縄文土器出張展示の中で、山の洲文化財交流事業とあるが、このことについて経緯を教えてほしい。

(事務局) 中部4県として、山梨・静岡・長野・新潟で3カ年事業として始まった。静岡県の方から、山梨とは観光面で、物産展などの連携はあるが、文化財の面でも連携してはどうかという話があり、令和6年度から事業化した

(委員) 観光・地域活性化に向けた取り組みについて、以前は日本遺産に関する記載があったが、今回の資料には日本遺産の記載がない。何か事情があるのか。

(事務局) 特段の事情はないが、民間企業との連携や長野県との連携など、日本遺産に関する事業はこれまで継続して実施しており、通常事業の一環として取り組んでいるところであるため、記載しなかった。

(委員) 来年度の企画展の実施内容を見ると、水煙文土器を押し出していくのだと思うが、山梨は子どもたちも含めて、土器を見たことがある人は多いと思う。水煙土器も見たことはあると思うが、ただ、これが水煙土器であり、この地域における特徴的なものであるというところまで理解できていないように感じている。そこを伝えていけるようにしたら良いと思う。

(委員) 多くの方にとって、土器は土器であって、土器の違いまで認識している人は少ないと思った。先ほど学芸課長から事業計画の説明があったが、その話が面白いと感じた。縄文時代になぜ過剰な装飾を施していたのか、という風に話をされていて、興味深かったし、言葉で伝えられる強さみたいなものもあると感じた。言葉の面でも伝えていけたら良いと感じた。

(委員) 考古博物館協力会としても、協力できることはあると思う。協力会でも、イベントに参加することがあるが、イベント参加者からも、やってみてはじめてわかったという声をいただくこともある。古代の人たちがなぜこのような装飾を施していたのか、土器作り体験などで実際に子どもたちに体験してもらうことも良いのではないかと思う。

(事務局) いただいた意見を踏まえて展示の在り方について検討していきたい。

(委員) 来年度は2つの企画展が予定されているが、展示の度に配置換えを行っており、学芸員の負担も大きいと思うが、館の改修などは検討していないのか。

(事務局) 2月議会で知事が所信を表明した。その中で、「考古博物館の展示の在り方を抜本的に見直すための検討を始める」との言葉があった。知事の表明を受けて、関連部署で検討を始めている。今後、適時、情報共有をさせていただきながらリニューアルに向けた検討を進めていきたいと考えている。

○考古博物館利用状況について

- ・冒頭事務局より考古博物館に関する説明があった。

(委員) 外国人利用者について、例えばグーグルマップ、クチコミサイト等、様々なツールがあるが、どのような経路で考古博物館に来られているのか把握はしているか。

(事務局) 統一的に把握はしていない。来館された外国の方に声をかけることはあり、富士山を経由してレンタカーでこちらまで来ているというのはよく聞く。日本に留学に来ている学生の方だったり、学者の方だったり、大使館関係の方に来ていただいている状況があった。

(委員) 山梨県では、富士山北麓エリアが高付加価値インバウンドのモデル観光地として県が事務局になって高付加価値化に取り組んでいるが、県のインバウンド策との連携や、誘客数の増加に向けた方策は検討しているか。

(事務局) これまで、インバウンド向けの取り組みとして多言語化への対応は進めてきたところ。日本遺産関連の取り組みとして、県をまたいで縄文文化を発信したり、観光機構とも連携してツアーを組んだりしてきた。今後も、述べた館のリニューアルと関連して、館として今後何が必要かというところを情報収集しながら、検討を進めていきたい。

(事務局) 今年度、海外博物館との交流事業として、新北市立十三行博物館のイベントに参加。フェスティバルには26,000人が参加した。当館でもブースを出し、パンフレットなども多数配布した。その成果かはわからないが、台湾の方も当館に来ていただいている状況も見られている。そのような場でも宣伝の機会も重要と考えている。

(委員) 過去に考古博物館ではリニューアルを検討したこともあったと思うが、財政的な面等から実現しなかった経緯がある。今は、知事の所信表明でリニューアルに向けた言及があったことは追い風だと思う。現在、外国の方がどのような経路で来館しているか統一的な把握はしていないとのことだが、QRコードを読み取ればすぐアンケートフォームから回答できるような仕組みがあれば、より把握しやすい。

(事務局) 現在はアンケート用紙にご記入いただいている。今後、QRコードの活用など、より把握がしやすいような仕組みについても検討していきたい。

○令和9年度特別展について 【非公開】

以上